



音の風景を聞き取って、イメージ豊かな旅をしよう

東京都市大学(旧武蔵工業大学)

山西龍郎
やまにし たつお

平塚市在住。東京都市大学(旧武蔵工業大学)教授。同大学、成城大、愛知県立芸大等で都市文化論、芸術論、ヨーロッパ社会史等の他、独語、伊語を講じている。ホルン研究の第一人者で「音のアルカディア〜角笛の鳴り響くところ」の著書で芸術選奨(新人賞)を受賞している。

Historic Brass Society, International Horn Society 会員
日本ホルン協会元副会長

音楽の好きな方なら、ウェーバーやブルックナーの曲を耳にすると、ヨーロッパの深い森の樹々のざわめきの中から、柔らかくそして重厚なホルンの音が彷彿とわき上がってくるイメージを抱かれる事でしょう。それは確かに19世紀のロマン派の夢見た、ある理想的な音の一風景でした。このイメージは、既に力を喪った貴族達の幻想、憧憬が織り込まれていますが、どの社会にも、現実そのもので充分に人々の心を揺さぶり、毎日の生活に華を与えてくれた、いや、今も与え続けている音の風景というものがああります。ここではその中から、ヨーロッパ旅行でもされた際に愉しく確認出来るものを一つご紹介しましょう。

(因に16-18世紀のほんものの狩猟の音風景を体験されたい方は、11月3日あたりにシャンボール城やヴェルサイユ宮殿、モーリツブルク城などで催されるイベントをお勧めします。予想を遙に超えた賑々しく迫力満点の音の響宴に包み込まれる事でしょう。とても「ロマンティック」とはいえませんが、それが当時の本当の音風景なのです。)

スペインとフランスの国境、ピレネー山脈の懐に、アンドラという小さな小さな公国があります。行政の多くは両大国に委ねながらも、プライド高く今も独立しています。その通りを歩かれると、郵便ポストが常に2つ並んでいるのに気付かれるでしょう。フランス、スペイン両国向けに並んでいるのですが、その一方にホルンに王冠を配したマークがあるでしょう。スペインの郵便マークです。あるいはずーっと東のスロヴェニア(バルカン半島)。黄色い地に黒いホルンのマークです。またぐっと北上して、バルトのリーガ、タリンの街も、歩いてみると同じようなマーク……ご存じの方もおられると思いますが、今のドイツ、オーストリア、スイス……といった国々も、どういった訳かホルンを郵便のマーク、エンブレムにしています。これはなぜでしょう?



15世紀から16世紀、つまりいわゆるルネッサンス後期、ヨーロッパは大雑把にいてローマとフランス王国とそして神聖ローマ帝国という名のドイツしかありませんでした。着々と中央集権化していったフランスに対して、ドイツは何百という国や街がそれぞれの単位で

帝国に参加していました。小さくなった現在のドイツも連邦制です。ドイツの地方都市が魅力的なのはそのおかげですが、これで困るのは、いざ鎌倉、といった際の街道、通信等のネットワークです。いちいち通行証を見せ、チェックされていたんでは、間に合うものが間に合いません。そこで当時の皇帝マクシミリアン1世が、ドイツのシュ



ヴァーベン地方や北イタリアで、肉の集荷、パンの焼き上がりなどを小さな角笛で知らせていた習慣を参考に作り上げたのが、「音」による公的郵便制度というべきものでした。飛脚の様なものには既に取り入れていたが、馬車や単騎で街道を疾駆する新しい音の風景というのが、この時生まれたのです。

この「音」の公制度のユニークで優れているところは、現実の私有権や既得権を侵害せず、ホルンの音が聞こえている時だけ、その空間が帝国の公的空間になる、聞こえなくなったら元の状況に戻れるという点です。ドイツの現状に見合った、現在のEUの原点たるハプスブルク家らしい発想といえましょう。

真夜中、街道を4頭立ての馬車がけたたましいホルンの音と荒い馬の吐息と共に疾走して来ます。するとその先の街の市門がギーッと音を立てて開けられます。そのホルン信号が緊急のメッセージを告知していたからです。またある時は、ソとシ・フラットという不安定な倍音を鳴らしながら駆け込んできた馬車も来ました。現在も一部で使われている救急馬車です…こうしてたとえば30年戦争の勃発と終息などが、帝国全土に伝えられました。(図参照)



この音の風景は、ドイツ文化圏の当たり前の日常でした。だからハイドン、モーツァルトやシューベルト〜マーラーまで、旅とか彷徨とかまだ来ぬ手紙とかのセンチメントを伝えたいとき、彼らはこぞってこのホルン信号をメロディーに取り入れました。『冬の旅』の「郵便馬車」では、ピアノの左手に馬車の動きが映し出されていますよ。マーラーの交響曲第3番もお勧めです。

フランスは中央集権化される中で、国道がパリと直結されていきます。だからホルンは不要でした。つまり先に挙げた国々や街は、何らかの形でハプスブルク帝国と関わり合ったところだったので。街歩きをして、ポストに出会ったら、マークを確認しましょう。そしてそのあたりを駆けめぐった人々あるいは馬たちの吐息を、あるいはホルンの音色をイメージしましょう。一挙に遙かなる時空にタイム・スリップすることが出来るかもしれません。

「飛騨高山臥龍桜」日本画大賞展と物産展のお知らせ!

飛騨高山臥龍桜日本画大賞展 9月30日(火)~10月5日(日) 9:30~ 平塚市美術館

観光物産展 10月 2日(木)~10月5日(日) 10:00~ ひらつか市民プラザ

友好都市である岐阜県高山市にある国指定天然記念物「臥龍桜(がりゅうざくら)」を記念した全国公募の日本画の展覧会です。飛騨高山南部地域の物産展も行います。

お問合せは文化・交流課
0463-25-2520まで